



No. 99

発行人 洪沢 茂

発行所・事務局一般社団法人千葉県社会福祉士会
〒260-0026 千葉県千葉市中央区千葉港7-1
塚本千葉第5ビル3階

TEL 043-238-2866

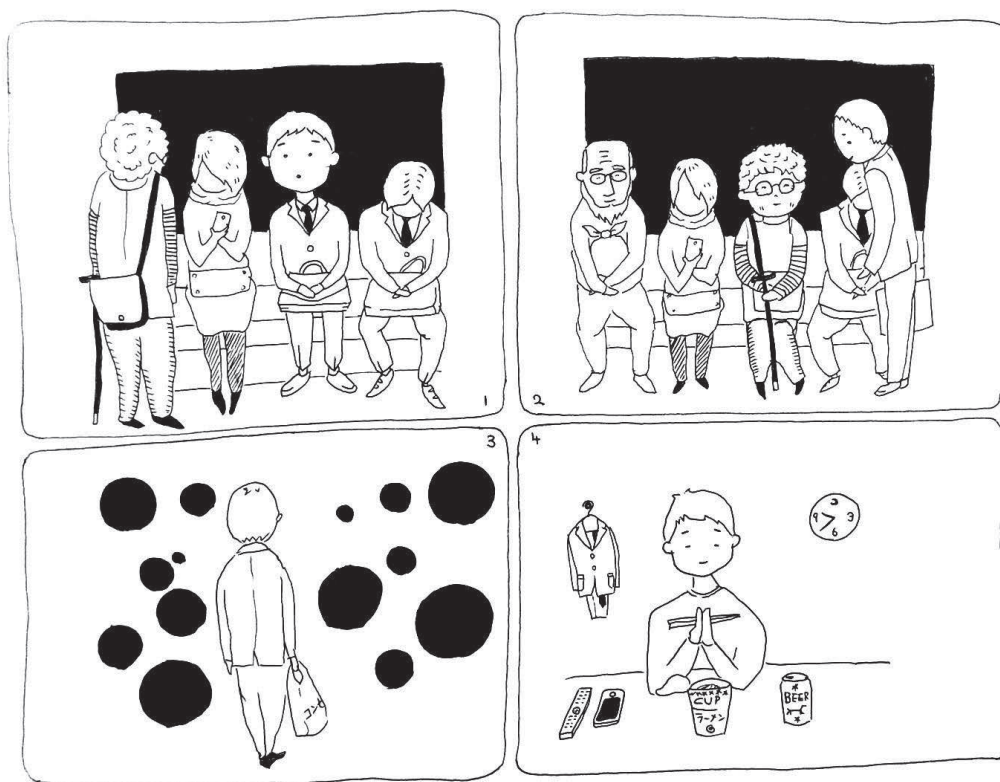
Fax 043-238-2867

<http://www.cswchiba.com/>

E-mail: office@cschwiba.com

※ 点と線はメール配信でも読めます！

特集 「あなたにとって働くとは」



「自分の仕事を愛し、その日の仕事を完全に成し遂げて満足した。こんな軽い気持ちで晩餐の卓に帰れる人が、世の中で最も幸福な人である。」

ー引用：ワナメーカー（アメリカの百貨店経営先駆者で教育や博愛事業にも尽力）ー

労働がすべてではないが、一般的に、労働に費やす時間は人生の半分を占めている。

『働く』を考えることは、人生を豊かにするヒントを見つけるきっかけになるかもしれない。

- 2～5 《特集》「あなたにとって働くとは」
- 6 災害対策 「復興ミカンをご存知でしょうか」
- 7 大人の文化祭への思い
- 8・9 点と線今昔物語
- 10 事業所紹介
- 11 社会福祉士のわ
- 12 事務局だより

特集

あなたにとって働くとは

ちようしサポートセンター

相談支援員

土井 佑太 「どい ゆうた」



千葉県社会福祉士会会員の皆様、初めまして。銚子市の生活困窮者自立相談支援窓口である「ちようしサポートセンター」で相談支援員として勤めている土井と申します。私は社会福祉士などの専門資格は何一つ持っておりませんが、「こんな考えを持った福祉職もいるんだよ」という感覚で読んで頂けたらと思います。

今回、『あなたにとって働くとは

何ですか?』とテーマを頂いたときに、ふと大学在学時を思い出しました。私の学生時代は学費を払う為に毎日バイトに明け暮れ、あつという間に時間が過ぎ、気づいた時には就職活動が始まっていました。そこで初めて自分と向き合った時に、「大学生生活で何をしてきたんだろう」と一気に自信が無くなり、そのまま大学を辞めてしまいました。今思うと、当時の自分には、何のために毎日働いていたのか、生きていたのか、正直答えることができなかったのだと思います。その後、縁あってバイト先の社長に拾ってもらい働く中で、今までの自分について真剣に見つめ直すようになり、もう一度新しいことにチャレンジをしてみようと思い転職を決意しました。この時に改めて自分は今まで数多くの友人・先輩・後輩に恵まれ、非常に多

くの方に助けられて生きていたことに気づきました。自身には何が出るのかを考えたときに「人と関わる仕事になりたい」「誰かの為に働きたい」と思い、福祉業界に飛び込みました。

NPO法人エス・エス・エスに入社し、三年間県内の無料低額宿泊所のエリアマネージャーとして、様々な社会問題を目にし、日々、試行錯誤を繰り返しながら業務に邁進しました。その後、「ちようしサポートセンター」に異動して約半年が経過しています。思った以上に精神的にタフでないと務まらない仕事で、どれも綺麗ごとでは済まされないことばかりでした。自分自身行き詰まることもありましたが、それを救ってくれたのはやはり人との関りでした。

利用者・相談者・職場の同僚・先輩・関係機関など、仕事を通じて多くの方と関わってきました。勉強会などを通じ様々な職種の方、経験をお持ちの方、違う視点を持った方と意見交換し、新しい発見や発想が生

まれた事もありました。どんな仕事でも悩みは尽きないと思いますが、働く中で多くの人と関わることにより、その問題の状況が一つでも変化することが、解決のきっかけになるのかもしれない。

就労支援に従事する人間がこのようなことを言っているのかはわかりませんが、私にとっての「働く」とは「関わる人に頼りたい」と思う気持ちかもしれません。一つの解決策として、支援を通して相談者が働き自立することがベストです。しかし、働くことで得られる収入以外の付加価値、それが就労の継続ややりがい、さらには生活の質を高めることに繋がることを自分自身で体験してきました。働くことによって得られる仲間がこんなにもいること、その仲間がどれほど大切で、時には助けられ、時には助け、自分には助けを与えてくれることか。

私は、「働くことでこんなにも助けてくれる人がいるんだ」ということを伝えられるような支援員でありたいと思っています。

合同会社浅見福祉サービス

代表社員

千葉県社会福祉士会

副会長 研修委員長

浅見 雅人 「あさみ まさと」



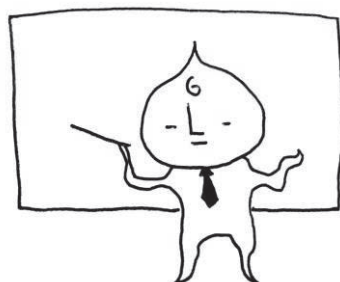
社会福祉士が「働く」とは、一般的には対人援助、話を聞くことと答えることが多いと思います。たしかにそうですが、長年福祉業界で仕事をしている中で社会福祉士の仕事を考えると、利用者、家族の心の声を如何に聞き、制度の支援だけではなく、如何に見極めるかということにつきると思います。

私のメインの仕事はケアマネジャーです。ケアマネジャーは、ケアプランを作成することによって仕事として成り立つものですが、国家

資格である社会福祉士は同じ対人援助を業務としておりますので、倫理及び仕事に取り組む上でとても役に立っています。私の仕事のスタイルは自分の名刺にも記載している「感謝、笑顔、賞賛」です。「感謝」は、私を頼って契約してくれた利用者や家族に対して、「笑顔」は、私に笑顔を与えてくれたすべての方、「賞賛」は、怒ることよりも褒める材料を与えてくれたすべての方に対してです。人が過ちを犯したら注意したり、叱責して相手の間違いを正そうとします。たしかに注意されると一時的には改善しますが、相手の心を無理くり強引に正そうとすることは傲慢ではないかと思えます。まずは相手の考えに寄り添い、思いをしつかり傾聴し、対人援助職としてマイナスな点をプラスの視点で見極め支援することを意識します。また、私は可能性を引きだすエンパワメントを心がけています。この人は一人では何もできないと思うのではなく、もっと可能性があり、まだ専門職として見えて

いないだけだと考察することにより、本人の可能性が開花できると思います。しかし、時には利用者、家族の思いや考え方と実際に提供するサービスが合わず、援助を求めている方々との考え方に差異を感じることがあります。その時は時間をかけて本当のニーズはなんだろうか、社会福祉士として「これだよかったのか」と振り返ることを常に意識しています。また、社会福祉士として、たとえ一時的に感謝されたとしても、それに甘んじることはなく、心から利用者が何を望んでいるか追い求め、「人を助ける」とは何かを突き詰め、専門職としてなができるか、なにかできないか、しっかりと自分の仕事内容を熟知しておく必要があります。できないことをできると伝え、利用者に迷惑をかけてしまった経験から曖昧な返事はせず、できないことはできないと伝え、できる可能性がある専門家へ引き継ぐことも必要だと思います。私は二十歳から介護業界に入り、今年度で二五年目になります。福祉

の専門家としてはまだまだ未熟者です。周りの人々に支えられながら成長している最中です。副会長、研修委員長と肩がきにはなっていますが、そんなに偉くはありません。ただ役職がついているだけで（私と関わる方々はよくご存じですが、）偉そうな態度をしたことはありませんし、今後もするつもりはありません。これからも利用者、家族を支援する専門職として、日々皆さまに支えてもらいながら努めていきたいと思えます。



田中 社会福祉士事務所
田中 達也 「たなか たつや」



「二足の草鞋を履く」という話は良く聞きますが、様々な分野に出没する私は、恐らく不思議な存在に映るのかもしれない。まずは今、携わっている仕事をお伝えしよう。週二日は法テラス千葉情報提供専門職、また、週二日は習志野市生活困窮者自立支援事業（以下、「生困」）の相談支援員兼就労支援員、ぱあとなあ千葉専門職後見人（以下、「後見」）、また、週二日は障がい者入所支援施設の生活支援員、また、単発で船橋市保健所難病患者訪問相談員・そんな仕事に携わっている。また、田中社会福祉士事務所も開設してい

る。

後見人活動を主にやろうと思っていたが、なかなか受任要請を待っている時には来ないものである。私は、千葉県の多重債務相談員を行っていた経験があり、仲間から非常勤で良いので手伝わないかと生困の事業に携わった・後見、生困事業に携わる中で弁護士、司法書士との付き合いや共同勉強会などで顔見知りとなり、法テラスの仕事にも繋がる。障がいの施設では、自閉症スペクトラムが分からないこともあり、現場で学ぶのが一番と思い手伝って、五年が経過する。一見するとなんら関連性が見いだせないかもしれないが、全てのものに携わる中で、気付くこともある。法テラスには、離婚問題、多重債務問題が多く持ち込まれる。法律家の支援で法的処理がなされる。次に生活再建問題が待っている。生活再建がなければ、問題の根本が解決しない。また、本年四月より法テラスでは、司法アクセスが難しい人達に対して、弁護士の派遣事業、支援者同席の法律相談

などが始まっている・・・の中には成年後見に繋がなくてはならない事理弁識能力の方もいる。高齢者だけの問題ではない、知的発達障がいの方も事件に巻き込まれることも多い。施設勤務の経験が役に立つこともある。

生活困窮者自立支援事業は、ワンストップ窓口で、多くの複合的な問題に連携して解決にあたる。連携の上で大切なことは、相手先の守備範囲を知ることでもある。なぜ連携するのか、連携して連携先に何を望むのかここがとても大切なことだと思う・複数の仕事に関わると多角的に問題を捉えられる気がしている。その一つ一つの事業の研修にも参加する。ひとつの領域で専門性を探求するのもいい。

私は繋がる横の世界を広げて異なる視点で問題を多角的に考える、そんな考えが現在の活動に繋がっているように思う。

まとめ

公益財団法人柏市医療公社
北柏地域包括支援センター
岡田 英明（おかだ ひであき）

私の解釈で理論と「働く」をこじつけていますが、個人的主観であることを、ご理解ください。

二〇一七年の日本人平均寿命は女性が八七・二六歳、男性が八一・〇九歳であり、健康意識の高まりや、医療の向上などで長寿になると同時に、社会保障費の増大・社会情勢の変化、経営者・労働者の意識の変化、例えば、定年前に早期退職し『やりたかった仕事』への再就職や、定年後の再雇用など、働き方・働く期間も多種多様となり、『年功序列』『一つの会社に永年雇用』が当たり前ではなくなってきた。

【働くということ】

仮に、初就職を大学卒業後の二二歳、定年を六十歳と考えた場合、実に三十八年間も労働をすることになる。

実際は、毎日休みなく二四時間働くわけではないため、時間に換算する野暮はしないが、人生の大半を労働に費やすことは想像できる。だから『働く』ことについて「人生が決まる」、「失敗したら終わり」と慎重になるのも理解に易く「勝ち組・負け組」といった造語も生まれるのだろう。ではなぜ働くのか？

【働きたい欲求】

マズローは、アメリカの心理学者で、「人間の動機づけに関する理論」で知られている学者である。

- ①生理的欲求 食・睡眠・性
生命維持に関わる根源的欲求
- ②安全の欲求 秩序・自由・安心
安心・安全な暮らし
- ③所属と愛の欲求 孤独を避ける
他者に受け入れられたい

④承認の欲求 名誉・地位・評価

自分を認め他者に評価されたい

⑤自己実現の欲求 探究・自己啓発

「あるべき自分」を願う

さらに極一部、目的の遂行・達成のみをピュアに求める「自己超越」が存在する。

だから働く理由は、「報酬を得たい。」が真理であり、「名誉や地位のため」、「楽しいから」これもまた真理である。マズローの欲求では、①から順にその欲求を満たすと次の欲求が現れるとされるが、現実

は「高給だから休みがないのも仕方ない」、「薄給だがやりがいがある」、「好きな仕事だが拘束時間が長い」等、妥協と納得を自己に言い聞かせ、『仕事を続けている理由』を動機付けとして見出していると私は考えている。見方を変えれば、結婚や出産で「この給料では厳しい」、傷病を経験し「健康を優先したい」、「家族との時間を作りたい」など『喫緊の事情』でもない限り、退職に対するハードルは高いとさえ感じている。ゆえに①から③の欲求を行き来

すれど、④まして⑤の欲求に至るには、喜び・悲しみ・疑問など現職の豊富な経験値から自ずと達観される欲求であり、一朝一夕には考え難いのもかもしれない。同様に、アルダーファのERG理論では、仕事にやりがいや成長の欲求が満たされなくなると職場の人間関係の欲求に意識が向き、人間関係が悪くなると賃金や休暇など自己の生存欲求に意識が向くようになると考えられている。

【仕事に価値を持つ】

豊かな人生に不可欠なものは『生きがい』である。それは誰もが実現できる価値あるものである。

例えば、相談援助の結果に対して、

- ①相談内容を解決した
 - ②「ありがとう」が嬉しかった
 - ③社会参加のきっかけを作れた
- 同じ成果に対して、複数の考え方ができる。『成果に目標を持つ』『社会との繋がりへ感謝』『私だからこの支援ができた』と、多少の傲慢や樂觀があるにせよ、自己肯定感を持

ち、前向きに仕事をした方が、長い人生豊かに自分らしく生きる上で『徳』である。

でも、人に迷惑をかけない程度で。



災害対策

復興ミカンを

「ご存知でしょうか」

藤木 仁美 「ふじき ひろみ」

「復興ミカン」とは、昨年七月にあった西日本豪雨の被災地である愛媛県の、傷を負ったミカンです。その窮地を乗り越えて実ったミカンです。

私は災害ボランティアで十月の終わりに愛媛県に入つてすぐ、ミカンを買おうと宇和島を訪ねました。千葉から来た私を、現地のミカン農家の方はとても歓待して「畑を見に行きませんか。」とドライブに誘ってくださいました。愛媛県のミカンは、深い入り江に沿うようにして、強い傾斜の畑が幾重にも重なって

います。段々のミカン畑も崩れ、無残にも根こそぎ地面をあらわにしている場所が多く見受けられました。愛媛県の惨状は想像以上のものでした。

その後私が災害ボランティアを行った大洲市は、ダム的大量放流で二階まで浸水した地域です。五日間をかけて、介護保険を利用していない六五歳以上の方の家を一軒ずつ訪問し、現状を聞き取りました。トリアージをして、緊急性の高い人から地元の地域包括支援センターに繋ぐのが活動です。被災（発災）から三ヶ月が経過していたので、人々の住む町の景色は平常を取り戻していました。しかし聞き取りを始めてみると、生活の課題が潜んでいることが明らかに、その内容は人によって大きく異なっていました。経済的な違いで家の修復度合いは大きく変わります。すでにすべて

の工事が終わり、新しくなった家での生活を始めている方もいます。被災しても倒壊認定が認められず、いまだにライフラインも復旧していない方もいます。その方は毎日近所の井戸で水をもらい、庭先で煮炊きをしていました。家族が近くにいる方は、家の修理中、その家に避難できますが、家族が遠い方は、避難所から毎日三十分車を運転して、住めなくなった家を片づけに来ていました。また、仕事のある方は、もう一度自分の生き方を見直し、再起しようとなさっていました。年金だけで暮らしていた方の中には、もうやり直せないとおっしゃる方もいました。発災から三ヶ月で個人的な支援の必要性を感じました。

ことが、人々のその後の生活を大きく左右します。ソーシャルワークの技術が支援に欠かせない事実を目の当たりにしました。全国の社会福祉士が、一人五日のバトンをつなげて、五カ月間ソーシャルワークを行っています。支援に入った時期によって、支援の緊急度は大きく変わります。しかし、目の前にいる一人の人に寄り添うという、ソーシャルワーカーの役割・仕事は変わらないはず。出会った多くの方々に自分の仕事の意義を教えていただきたような気がします。これからより研鑽を積んで、適切な支援が出来るようソーシャルワークの力をつけて行きたいと思っています。

愛媛県大洲市のみなさんへ
「愛媛の復興ミカンをたくさん食べます！」



「大人の文化祭」 についての思い

竹嶋 信洋「たけしま のぶひろ」

私は、澁澤会長になってから理事として会に関わらせてもらっている。澁澤会長の働きを見ていると、とてつもないエネルギーとご苦勞を感じる。歴代の会長や事務局長を含めた執行部の方々にも心から敬意を払いたい。

澁澤会長の方針としては、代々の執行部が作り上げたことを礎にして、会の運営をよりやわらかく、開かれたものにしたということがある。会長がお話された中に印象深い言葉が二つある。それは、「もったいないな」と「広げることよりも深めること」の二つだ。

どちらも自分なりに考えて噛み砕いてみた。

会の会員は、一千五百人近くいる。しかし、実際に会の活動に参加している人はどのくらいいるのだろうか。私の知る限り、ほんの一握りだ。そう考えたときに「もったいない」と思った。高い会費を払って参加している人にとっても会費分がもったいないし、一千五百人の優秀な社会福祉士が会の活動に関わっていない状態ももったいない。

私たち社会福祉士は、制度から溢れ落ちる人たちの支援や見えないう二ーズを掘り起こすことに強みを持っている。各々がそれぞれの地域と分野で、様々な人たちとながら、課題解決のために汗を流している。ソーシャルワークの実践だ。しかし、もっと異なる形も望めると思った。本会の会員一千

五百人がつながり、一緒に動けたら、つまり会員同士が「深める」ことができたなら、もっと多くの人の笑顔を見ることがへの挑戦ができるような気がしている。

今回の「大人の文化祭」は、その第一歩として企画した。深めるために、まずは知ること、そして語り合うことが大事だ。そうして紡いだ結果の先に、自分たちの足元を、今よりもほんの少しだけ範囲を広げて照らし、その光の輪があちらこちらで繋がっていき、千葉県全体がシャンドリアのように輝き、悩んでいる人たちの顔も笑顔で輝く日が来ることにワクワクとドキドキを感じている。



点と線、今昔物語

『点と線』発行一〇〇号を目の前にして、創刊号から第三号までの『点と線』を読み返しました。

創刊号は、一九九二年十一月に発行されました。一九九三年一月に設立が予定される日本社会福祉士の動きに続くように、一九九三年四月十七日（土）に千葉県社会福祉士会設立総会を準備されました。設立準備委員会の代表は、当会初代会長となった故坂下光男さん。事務局（兼『点と線』編集者）の故藤城恒昭先生との最強タッグのリードのもと、二三名の準備委員によって千葉県社会福祉士会は設立されました。

一九九二年十月二五日に開催された千葉県社会福祉士懇談会には十五人が出席し、全員一致で千葉県社会福祉士会設立準備会の発足を確認されました。懇談会では、日本社会福祉士会設立準備

会の西澤秀夫委員長が来場され、会設立の経過と準備状況の報告とともに、社会福祉士会設立の意義について「広範な期待の中でスタートした社会福祉の専門職制度であるが、多くの問題を抱えており、専門職能団体の結成と活動を通して、資質と専門性の向上と社会的承認・クライエントの権利の擁護のためにも是非とも必要である。」と訴えられました。

懇談会では、以下のような意見交換がなされました（引用部分は原文のまま）。

□運良く合格したけれど

「初めての日本における社会福祉制度であり、とりあえず挑戦してみたらずよく合格した。しかし現実的な意味は、いまだ釈然としない。情報交換や交流・研修などが必要ではないか」

□社会福祉分野で働き続けることに役立つ資格制度

「女性の場合、様々な要因で一旦社会福祉の現場を離れなければならぬことが多い。看護婦や保

健婦資格などの様に、再就職に生かせる資格制度として発展していくことを期待している。」

□まず、受験資格の改善を

「長年、社会福祉の現場で活躍し優れた業績を挙げている多くの人に受験資格すらない現行制度は、問題が多い。社会福祉士会として取り組みが必要ではないか。」

□点から線へ

「せっかくの有資格者も職場でも地域でも「点」にすぎない。自己満足でなく社会的役割を発揮していくためには、まず手をつないで「線」ぐらいになっていくってどうか。」

「福祉の世界でもきちんと生活できるように」との出発点から社会福祉士の資格を取得し、「点」

になっていた私は、千葉県社会福祉士会を通じて人とつながり「線」のひとつとなりました。クライエントに寄り添うこと。価値が多様な中でそのことの難しさ

を学び、援助観が迷子になったときには、倫理綱領・行動規範という柱のもと繋がった仲間による傾聴・助言の力を借りながら、援助者としての研鑽を続けることが出来ております。

我々は偉大なる先輩方がつくられた土壌の恩恵のもと、社会福祉士を名乗り、『点と線』の発行に携わらせていただいています。身の引き締まる思いです。今後我也会の内外に対して、「人と人」「人と価値」が点から線につながっていく広報誌を作っていきます。

（広報部会 瀧澤）



《資料》

千葉県社会福祉士会設立趣意書

(案)

「生活大国」をめざす我が国日本。しかしその現実はどうでしょうか。

超高齢社会を目前に、労働力不足、家庭と地域の介護力の低下、また、権利意識の未成熟、さらには生活様式と価値観の多様化の中で真の豊かさとは程遠い現状ではないでしょうか。

こうした時代と社会の中で、個人と家族、地域社会を生活の視点から支えていこうとする社会福祉の課題が急激に増大し、同時に、その課題を有効に解決して行くための専門的な実践と援助者が必要となってきました。

かかる時代の要請に基づいて、一九八七年、わが国で初めて法制化された社会福祉専門職制度として、国家資格「社会福祉士」が誕生して五年が経過しようとしています。

この社会福祉士資格は、さまざまな問題を内包していますが、特徴として非常に幅広い社会福祉関連職種の人々が登録されている点にあります。また、歴史も浅く、名称独占という性格の上、有資格者も少ない状態にあり、いまだ社会的な役割を十分に発揮できない現状にあります。こうした時、一九九三年一月十五日、全国の五五五人の社会福祉士が結集して日本社会福祉士会を設立しました。

社会福祉実践は、社会福祉利用者(クライエント)の自己実現と人間にふさわしい社会生活の実現を第一の目標としますが、援助者の技能と同時に、人間性や価値観が常に問われ、また社会資源の整備状況によって規定される特質をもっています。

そのため、社会福祉の充実と実践の科学的・専門的發展を念願する私たちは、不断の研鑽と努力によって、自らを高め、同時に利用者・市民と共に社会資源の整備を

推進し、社会福祉理念の定着と進展に寄与しなければならぬ社会的役割を負っているものと考えます。

私たち社会福祉士は、この課題をなしとげるために、今こそ一致結束して、自らの団体、社会福祉士会を千葉県に創設して行くことではありませんか。

こうした趣意に基づいて、私たちは千葉県社会福祉士会(日本社会福祉士会千葉県支部)設立のため、準備委員会を組織し、鋭意準備を進めてまいりましたが、来る一九九三年四月十七日の設立総会を迎える運びとなりました。

千葉県在住の社会福祉士のみならず、こぞって参集し、千葉県社会福祉士会の歴史の扉を共に開こうではありませんか。皆さんの参加と入会を心から訴えるものです。

また、社会福祉・保健・医療関係者、関係団体の皆さん、千葉県社会福祉士会設立の趣意にご賛同いただきまして、賛助と資金援

助をいただけますよう併せてお願い申し上げます。

一九九三年二月

千葉県社会福祉士会

設立準備委員会委員長

坂下 光男

準備委員一同

事業所紹介

「すべては利用者さんのために」

社会福祉法人FLAT

就労継続支援A型・B型

フラットヴィレッジ



北総線白井駅から徒歩十分、どこまでも澄みわたる冬の空のもとに、アメリカの西海岸を想わせるおしやれな建物が現れました。

今回ご紹介するクリニックカフェ「フラットヴィレッジ」は、平成三十年四月にオープンした就労継続支援A型・B型事業所で、児童発達支援事業所、レンタルスペース、無料自習スペースが併設された複合型の福祉施設です。

社会福祉法人FLAT理事長の林晃弘さんは、「社会の図式を変えたい」とおっしゃいました。障がいがあることで能力を正當に評価されず働きに見合った工賃を得られない、そうならざるを得ないシステムに疑問を持ち、一から事業を立ち上げ、「すべては利用者さんのために」と理念を共有する大切な仲間と共に、利用者のニーズに合わせて事業を展開してきたそうです。

地域共生という言葉は、福祉に関わる人たちにとっては随分と馴染むようになりました。しかし、実際に地域と共に生きる福祉施設を体

現できている事業所はどれくらいあるのでしょうか。地域共生に限らず、業界内では使いこまれた表現も一般的には浸透していないことがあります。福祉のイメージを一般化しハードルを下げ、自然と地域住民が足を運びたくなる仕組みをつくれれば、年間で数万人と言う来客数が見込める場所になる。そこはもうひとつの地域と言えるのではないのでしょうか。利用者を地域に出すだけではなく、福祉に地域を呼び込む仕組みは、福祉に関わりのない住民が足を運んだ先で自然と障がいのある方々と空間を共有し、見て、感じて、知っていくことができる福祉の入り口にもなっていると感じました。

福祉の入り口としての役割は、地域住民に対してだけではなく、法人で働く職員に対しても同様です。福祉に関わりのなかった人にも興味を持ってもらい、働いてみたいと思わせ、働きながら福祉を見て感じて知っていける環境づくりには、福祉人として大いに刺激を頂きました。



【事業所情報】

開所時間 9:00-22:00 (LO:フード 21:00、ドリンク 21:30)

〒270-1431 千葉県白井市根 460-1 TEL 047-401-2123

福祉事業所としての熱く真摯な姿勢をもちながら、時流に乗った運営で働きやすく、カフェとしての居心地もよくクオリティも高い。一般客としても福祉人としても心惹かれる場所がありました。

(広報部会 大橋)

社会福祉士のわ

「顔の見えるつながり」かけがえない財産です」

いんば中核地域生活支援センターすけっと

松島 浩一郎

「まつしま こういちろう」

「中核センターすけっとの松島です！」日頃より関係する皆さまには大変お世話になっております。

藤井さんからバトンを受け取りましたが、気がつく佐倉市内の会員が三名続いた形ですね。次は他圏域の方にお願ひしようと思います。

私事ですが、平成二八年四月に社会福祉士会に入会していました。会員の友人からは「いい加減…」と呆れられていました。入会のきっかけは三年前にすけっと(印旛圏域の千葉県中核地域生活支援センター事業。以下、「すけっと」)への異動を命じられたことでした。

初めて相談業務から離れるという事態に直面し、情報が欲しいと思ひ入会しました。その後の活動は…。今後、参加率を高めていこ

うと思います。澁澤会長、すみせん。

私が福祉業界に身を置くようになり、この四月で二十年目を迎えます。すけっとに配属になる前は、特別養護老人ホームや在宅介護支援センターの相談員を四年ほど、その後、障がい者の相談員を半年ほどしていました。若さや知識不足もあり、相談や困り事があれば、制度の中のサービスを組み合わせて解決していたような記憶があります。

平成十六年十月から千葉県内で中核地域生活支援センター事業が始まり、幸運にもすけっとの担当になりました。千葉県中核地域生活支援センター事業は、「相談対象者を限定せず、二四時間三六五体制で、生活や福祉に関する総合相談や権利擁護の対応を行う。また、相談から地域の課題を抽出し、地域づくりを行う」事業です(※現在は実施要綱が変わっています)。私は本当にこの事業に育てていただいたと感じています。

すけっとに寄せられる相談は制度に該当しないものが多く、それまでの経験や知識ではなかなかうま

く対応できませんでした。当然ですが、相談は一つとして同じものはありません。そして、思うように進みません。人生が関わることでずから当たり前です。

正直、「続けられないなあ」と、繰り返し悩んでいました。当時の所長には「二人前に相談や支援ができるようになるまで十年かかる」とも言われていました。その言葉に支えられて(騙されて?)、何とか続けられました。

その後、相談や支援を積み重ね、次第にどのように対応したら相談者が望む暮らしを実現できるように支援ができるのか、少しずつ学んでいくことができました。それを教えてくださったのは、すけっとで受付けた相談を一緒に考えてくださった、チームでの支援を考えてくださった地域の皆さんだと思っています。

相談を積み重ねながら地域の皆さんの顔を覚え、一緒に悩み考えていただける「顔の見えるつながり」が増えていきました。そのような「つながり」から、困難な相談も少しずつ進めることができるようになり、さらにやりがいのある仕事だと感じられるようになりました。

「顔の見えるつながり」、一緒に考えてくださる皆さんは本当に財産だと思っています。

これからの地域では、ひきこもりや8050問題、外国人の労働者や外国人の生活の問題、刑余者、犯罪を繰り返す人など制度に該当しない相談がまだまだ増えていきそうです。一人ひとりの権利が護られることを原則として、相談者の望む暮らしの実現のため、皆さんと連携し楽しく仕事をしていきたいと考えています。また、福祉分野以外の方達とも連携し、充実した活動・充実した人生を送っていききたいと考えています。

是非、会員の皆さんと繋がっていききたいです。よろしくお願ひ致します。



長かった寒冬が終わり、待ちに待った春が来ました。みなさまいかがお過ごしでしょうか。

年度末や年度初めの準備でお忙しい日々をお過ごしのことと思います。くれぐれもご自愛ください。

平成の時代が終わり、5月からは新しい時代が始まります。新しい時代は災害などが少なく平和で穏やかに暮らせることと、素敵な新しい出会いがみなさまにありますことを祈念いたします。

研修等・行事のお知らせ

※4月以降、順次開催研修の申込案内をホームページに随時掲載致します。

また、研修等が新たに決定した際にはホームページに随時掲載いたします。是非チェックしてください。

千葉県社会福祉士会ホームページ：<http://www.cswchiba.com/>

【以下、新年度研修予定】

- ・研修委員会-基礎研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、実習指導者講習会他
- ・権利擁護センターぱあとなあ千葉運営委員会- 必須登録員研修、レベルアップ研修、成年後見活用講座、ぱあとなあ千葉サポート、テーマ別弁護士との事例検討他
- ・司法福祉委員会-刑事司法ソーシャルワーカー養成講座（基礎編）、（応用編）

会員の皆様へお願い

お名前・ご住所・電話 FAX 番号・お勤め先等が変更となった場合、変更届の提出が必要です。

入会時と変更がある場合は、お早めに手続きをお願いいたします。

※変更届は会員名簿巻末に準備がございます。FAX 受付も可能です。

ようこそ！千葉県社会福祉士会へ

氏名	居住地	勤務先	氏名	居住地	勤務先
宮脇 俊雄	船橋市	(福)あひるの会 あかね園	吉村 和人	市原市	在宅介護支援センターちば美香苑
中村 健二郎	館山市	(福)ベテスタ奉仕女母の家 婦人保護長期入所施設 かにた婦人の村	河野 ひかる	いすみ市	(福)優愛会 特別養護老人ホーム はまひるがほ
三上 友莉香	—	(福)フラット			

正会員登録「点と線掲載の可否」の項目で、可に○を頂いている方のみ掲載しております。（順不同・敬称省略）

平成 30 年 12 月末現在の会員数

正会員 1,498 名、 準会員 4 名、 賛助会員 2 名 合計 1,504 名

千葉県社会福祉士会には、

「各地域で社会福祉士が交流できる地域集会」「情報交換ができる部会」「研修等の企画について語り合う部会」「点と線を作成している広報部会」等、様々なネットワークづくりの場があります。

社会福祉士として新たなつながりを求めるとき、事務局へ相談してみてください。

(TEL) 043-238-2866